

山口県病院協会 会報

2020 **10月号** No.69

- 発行日 令和2年10月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 三浦 修
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



医療法人社団松涛会 安岡病院

〒759-6604

下関市横野町3丁目16-35

電話 083-258-3711

FAX 083-258-2590

URL : <http://www.syoutoukai.or.jp/>

CONTENTS (目次)

会員病院紹介.....	2 ページ
協会役員コーナー.....	3 ページ
病院スタッフコーナー.....	4 ページ
研修会報告・トピックスコーナー.....	5 ページ
医療懇話会報告・部会コーナー.....	6 ページ
部会コーナー.....	7 ページ
諸会議報告・お知らせコーナー.....	8 ページ

会員病院紹介

病院長挨拶



医療法人社団松涛会
安岡病院

病院長 楠美 由紀

当院は、前理事長の斎藤正樹が昭和56年に下関市安岡の地に開設したものです。

下関医療圏内では、四つの急性期病院の後方病院、またクリニックの連携医療機関として位置づけられています。

幾多の変遷を経て現在の形となりましたが、数年前の病棟再編が最も劇的な変革でした。それまで長期臥床状態の患者さんが殆どであったのが、地域包括ケア病棟の導入と回復期病棟の更なる改変により、元気に日常生活に帰っていく患者さんが大幅に増えました。亜急性期の病態を扱うことも多くなり、職員のスキルアップが求められ、前院長の戸田健一先生の下、皆が頑張りました。おかげさまで、それまで定評をいただいていたケアに加え、診療の面においても質の向上を図ることができました。

当院の最大の特徴は、連携福祉施設が充実していることです。これは、前理事長が、日々の診療に勤しむ中で、ことに高齢者への医療は、治療のみでは不十分であることに気付いたことから始まりました。治療が終了した後も、あるいは持病を抱えたままでも、その人らしい人生を送るためには、福祉との連携が不可欠であるとの思いを強くし、一連の福祉施設の設立に至りました。

また、癒しの場となる療養環境に力を入れているのも特徴の一つです。3年前から旧病棟の一部改築に着手し、一昨年12月に新病棟が完成しました。ベッド上の患者さんでも風景を楽しんでいただける様に窓枠を下げ、風光明媚な響灘を一望できる4階に緩和ケア病棟を配し、四季折々の花々や草木が楽しめる中庭ではリハビリテーションや散歩もできる様に工夫しました。

このご時世、医療業界も大変ですが、皆さん、どうにか乗り切ってください。

そして、コロナ禍が過ぎ去った後に、是非当院にお立ち寄りください。お待ちしております。

<病院の現状>

1) 概要

名 称 医療法人社団松涛会 安岡病院
開設者 理事長 斎藤 妙子
所在地 山口県下関市横野町3丁目16番35号
T E L 083-258-3711
F A X 083-258-2590
E-mail webmaster@syoutoukai.or.jp
U R L https://www.syoutoukai.or.jp/
病院長 楠美 由紀
診療科 内科、緩和ケア科、脳神経内科、整形外科、リハビリテーション科、呼吸器内科
病床数 234床
(地域包括ケア病棟54床、回復期リハビリテーション病棟52床、緩和ケア病棟36床、特殊疾患病棟44床、医療療養病棟48床)
介護医療院 44床

2) 沿革

昭和56年 6月 開設 (52床)
昭和61年 4月 増床 (278床)

平成11年 4月 緩和ケア病棟 開設
平成15年 9月 特殊疾患病棟 開設
平成18年 9月 回復期リハビリテーション病棟 開設
平成29年 9月 地域包括ケア病棟 開設
平成30年12月 新病棟完成
令和元年 4月 介護医療院 開設

3) 特徴など

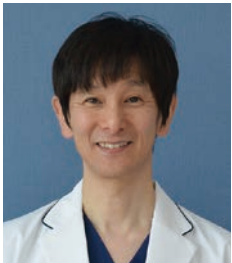
- ・関連福祉施設の充実
- ・特色ある各病棟
- ・癒しの場の提供 (療養環境の充実)
- ・日本医療機能評価機構認定：4回更新、取得
- ・理念：“医療・介護・福祉の連携により、地域社会に貢献いたします”

「あなたの歓びが、私の生きがいです」

活動的だった前理事長が亡くなる少し前に、自宅の鍵が開けられなかったことがありました。そのとき、「わしはもう、鍵もあけられなくなってしまった……」と寂しくつぶやいたことが忘れられません。誰しも年を取っていき、できないことも増えていきますが、そのことによる哀しみを少しでも和らげる病院でありたいと思っています。

協会役員コーナー

病院組織における教育について



社会医療法人いち樹会
尾中病院

理事長 尾中 宇蘭

コロナ禍の勢いがまだ収まる気配はなく、病院関係者には頭と胃が痛い毎日が続いています。この原稿に向かっている時点で、県内初のクラスター発生が認定されるなど、先行き不透明で改善の兆しも見えない状況ですが、本稿においてはそれと同じくらい私が最近考え続けている教育の問題について触れてみたいと思います。

本協会報の前号において取り上げていただきましたが、当院は本年3月に新築移転を行いました。それに伴って地域包括ケアシステムにおける当院の在り方や、今後の方向性を明確化するために、理念の刷新、法人名の変更など比較的大きな法人内部の改革を行いました。新しいハードウェアにおいて、職員一人ひとりが共通のベクトルで各々の職務に取り組むことができるように、移転までに1年以上の時間をかけて、理念の浸透や部門目標とのすり合わせなど様々な準備を行いました。そこで改めて実感させられたのが、病院組織における教育の重要性です。当院におきましても、eラーニングやコーチングスキル研修など取り入れてきたものはありますし、看護部を中心とした部門ごとの教育体制は一定の水準には達しているものと自負しております。しかしながら法人全体として目指すべき人材の育成に関するクレドや、部門を超えて共有しうる教育方針などの整備は不十分であったと言わざるをえません。あるべき教育体制とは、経営層の意思を職員にご理解いただくための内部広報でもありますし、頑張ってくれた職員を公平に評価することにもつながります。新しい体制は一朝一夕には完成しないと覚悟していますが、これまで多くの諸先輩方からいただいたご指南や、全国の病院の成功例などを参考に、長い目で取り組んでいきたいと思っています。

ちょっとコロナから離れてみよう



社会福祉法人恩賜財団
済生会支部
山口県済生会山口総合病院
病院長 城甲 啓治

コロナ感染症拡大が止まらない。一旦収まりそうにみえたが、思いもよらず早く第二波（異論もあるが）がやってきた。この間、人の生活は本当に変わった。マスク・手洗い、ソーシャルディスタンス、ステイホームはすっかり浸透し、効果は現れているが、反面、地域の中には自粛警察のようなものが発生し、偏見、差別を生み、人の繋がりにギスギスしたものが生まれてきている。人は動かなければ生きていけない、と思う。

そうした中、人の目を気にせず、気分転換に秋吉台を歩いてみた。盆の日の未明4時、駐車場には数台の車が止まり、皆空を見上げていた。夏の風物詩、ベルセウス座流星群である。ヘッドランプをつけて、冠山（377m、コロナ山ではない）を目指す。周りに灯はなく、360度、漆黒の空を独り占めし、コロナとは全く無縁の世界に浸る。次第に空は青みがかりブルーアワーが始まる。日の出直前の時間帯の青は深くて神々しい。その後、陽光は一面の草原を黄色く照らし、陰となるアリ地獄のようなくぼ地（ドリーネ）とのコントラストがおもしろい。暑くなる前に、北方向の地獄台（409m）に上り、ところどころ草を掻き分けたり、野草を探したり、のんびり下山する。済生会の紋章であるナデシコが咲いていた。

この稿が掲載される頃、地域医療構想の話し合いが再開するのだろうか。そろそろインフルエンザもやってくるのだろうか。病院も動かなければ生きていけない。

病院スタッフコーナー

コロナ禍の間、私に起きたこと



医療法人陽光会
光中央病院
看護部長

伊藤 節美

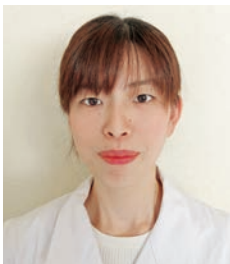
今年2月に還暦を迎えて、健康には留意してなどと考えていた矢先に3月職場の健診で、乳癌が見つかりました。昨年の健診では、異常なかったのに絶句状態です。

当院は、2010年8月に次世代型健診センターVIVOを開設しています。VIVOとは、ラテン語の「生き生きしている」から命名されました。乳腺外科の乳癌検査は、女性担当医師を中心にマンモグラフィー・触診・エコーの3検査をセットで行います。日本乳癌学会関連施設に2018年1月1日に認定されています。乳癌認定医師の田中喜久先生が1週間に1回診察をされます。そのため、早期発見につながり検査後に直ぐに手術になりました。私の場合も早期だったので、4月初旬に手術していただき放射線治療などを経て、7月からは職場に復帰しました。今回、病気になって改めて痛感したことは、看護師なのにこの病気を知らないことが多くて、今まで何をしてきたんだろうと反省しきりです。世界中がコロナで大変な時期でもありましたが、病院長の丸岩昌文先生がゆっくり静養するように言ってくださったので、本当に有難かったです。

これから自分と同じ病気の方には、当院の乳腺外来を受診していただきたいですね。そして、私と同じ病気で悩んでおられる方に自分の経験をお伝えして、一緒に病気と闘っていければと思います。この病院へ就職して、いい医師に出会えて手術して治療していただいたので、本当に良かったと感謝しています。

これからの人生、生ある限り看護師という仕事に従事して恩返し出来ればと思います。

シームレスな栄養ケアを目指して



医療法人全真会
全真会病院
管理栄養士

長富 亜登美

当院は、今年度四月より新しく医療・介護の複合的ニーズを持ち、「生活の場」を提供する介護医療院と、医療療養病床を併せ持つ医療機関へと転換期を迎えました。

地域の状況に合わせ、医療・介護・住まい・生活支援サービスが一体となり提供される地域包括ケアシステムの構築が推進される中、より個人を主体とした切れ目のない栄養ケアが求められています。

令和二年度診療報酬改定では、「栄養情報提供加算」が新設され、入院中の患者の栄養管理に関する情報などを、管理栄養士がいる後方施設へ情報提供する事が評価されました。高齢化に伴い、食欲低下や口腔機能の低下、認知症などによる低栄養の問題も多いため、栄養情報提供書の有用性を強く感じています。

当院は、急性期治療を終えた患者が地域で継続的に治療やリハビリテーションを受けるために入院され、また、他施設や在宅へと退院される中間的役割も担っています。

自立支援という視点で、院内カンファレンス等で多職種と連携することはもちろん、前病院からの栄養情報を受け取りすばやく切れ目なく継続していく為に、ますます同職種間の連携が重要になっていくと考えます。

医療・介護・地域をつなぐため、積極的に地域活動にも参加し、互いに顔の見える関係を構築するとともに管理栄養士としての研鑽を積みたいと思います。

研修会報告

令和2年度 病院初級職員研修会

令和2年9月3日（木）山口県総合保健会館第1研修室において、病院初級職員研修会が開催され、70名の参加があった。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修室定員の半数以下での開催とした。研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「山口県下の病院の概況」

講師 山口県病院協会

事務局長 天津 昇次

テーマ 「病院で働くために必要な接遇技術」

～患者さん＆職員間の人間関係を円滑にして
病院のイメージアップを目指しましょう～

講師 有限会社ケイ・アンド・ワイ

人材育成部門 代表 温品 富美子 氏



温品 富美子 氏



研修会風景

トピックスコーナー

県への陳情：医療従事者に対するCOVID-19 PCR検査の充実について

全国の大都市圏のみならず、県内においても、今後更にCOVID-19感染者数が増加した局面を迎えることもあると考えられる。

そこで山口県病院協会では、県医療体制の安全性を高めるため、また、医療機関の不安を軽減するため、医療従事者やその周辺勤務者等に対するPCR検査や抗原検査を、必要な際に即実施できる体制を構築するよう、県へ陳情した。

8月26日、三浦会長、神徳副会長、天津事務局長の3名が県庁を訪れ、村岡知事、柳居県議会議長に要望を伝え、県医療体制への支援策などについて意見交換を行った。



県庁にて



村岡知事と

医療懇話会報告

令和2年8月21日（金）午後3時より、山口県総合保健会館第1研修室において、令和2年度医療懇話会が開催された。今年度は充分に間隔を開けた配席とし、山口県健康福祉部から弘田隆彦部長ほか10名、山口県病院協会から三浦会長ほか14名が出席した。

三浦会長の挨拶に続いて、弘田部長より挨拶がなされた。続いて、健康福祉部の各課長から令和2年度の山口県健康福祉部の事業概要についての説明があり、新型コロナウイルス感染症に伴う医療機関等への支援事業説明も行われた。

また、事前に以下の質問事項の提出があり、それぞれに県担当課長より回答がなされた。

1. 新型コロナウイルス検査体制の現状と今後の見通しについて
2. 災害時の避難所等における感染対策について
3. 経営支援政策について
4. 空床確保について
5. 新型コロナウイルス感染職員が発生した際の対応について

他にも、新型コロナウイルス感染症に関して現在の県の体制や今後の仕組み作り、計画に関して様々な質問があがり、県担当課長より十分な説明がなされた。



三浦会長



弘田部長



懇話会風景

部会コーナー

山口県病院協会事務長部会常任幹事会

日 時 令和2年9月9日（水）15:00～16:00

開催場所 山口県総合保健会館第2研修室

【協議事項】

1. 令和2年度事務長部会の活動について
2. 令和2年度事務長部会支部会議について
3. その他



部会コーナー

山口県病院協会看護部長部会 設立総会及び研修会

令和2年9月18日（金）、山口県総合保健会館第1研修室において、山口県病院協会看護部長部会設立総会及び研修会が開催され、43名の参加があった。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場定員の半数以下での開催とした。総会の議案、研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【総会】

議案第1号 看護部長部会運営規則の制定について

議案第2号 部会設立当初役員選挙について



総会風景

山口県病院協会看護部長部会役員は以下の通りとなった。

部会長	大林 由美子 氏	（山口赤十字病院 看護部長）
副部会長	藤田 恵 氏	（済生会下関総合病院 看護部長）
常任幹事	安永 彰子 氏	（岩国市医療センター医師会病院 看護部長）
常任幹事	小阪 マリ子 氏	（徳山中央病院 看護部長）
常任幹事	伊藤 泰枝 氏	（小野田赤十字病院 看護部長）



新役員挨拶

【研修会】

テーマ 「病院運営と看護管理 ―これまでとこれから―」

講師 公立大学法人 山口県立大学
副学長 田中 マキ子 氏

田中氏は、Society5.0の社会像とそこで求められる人材像、学びの在り方について講演された。

診療報酬改定や様々な制度改革による多様な働き方など社会の変化は著しく、その中でスタッフの職業的社会的化を行い、良い組織文化を醸成していけるよう、様々な事例や研究データを上げて解説された。



田中 マキ子 氏

～看護部長部会設立にあたって～



山口赤十字病院
看護部長

大林 由美子

医療を取り巻く環境の変化は著しく、新型コロナウイルス感染症の流行や頻発する自然災害、診療報酬改定など、様々な動向を注視しつつ、地域住民の健康と生活を護るための活動は絶え間なく続いています。そのような環境の中で、医療施設の看護部門は、職員の半数以上を占めており、それを統括する看護部長あるいは総看護師長が果たす役割や期待もとても大きくなっています。

これまで看護管理者は、公益社団法人山口県看護協会の看護管理者会議や研修、山口県認定看護管理者の会や各医療圏での交流会等、様々な場を通じてネットワークづくりに努めてまいりました。しかし、看護部長や総看護師長といった看護部門のトップマネージャーに限定した交流の場はなく、同じ立場でのネットワークの構築、相互支援、研鑽の場の必要性を感じていたところです。

この度、三浦会長をはじめ、関係者の皆様のご尽力により、看護部長部会設立の運びとなり、大変嬉しく思っています。看護部門のトップマネージャーは、所属施設の価値を高めながら、組織の維持、発展を図り、保健医療福祉サービスの向上に向けて、先見性、創造性をもって自施設内外で活動することが求められます。看護部長部会の設立を機に、より強固なネットワークを築き、地域住民の皆様が安心して療養できる環境づくりに取り組んでまいりたいと思っています。

関係者の皆様には引き続き、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

諸会議報告

令和2年度 第1回正・副会長会議

日 時 令和2年4月17日（金）15:00～16:00

開催場所 防府胃腸病院会議室

【協議事項】

1. 山口県病院協会令和2年度第1回理事会及び令和2年度定時総会の開催要領について
2. その他

令和2年度 第2回正・副会長会議

日 時 令和2年8月5日（水）13:00～14:00

開催場所 防府胃腸病院会議室

【協議事項】

1. 令和2年度病院協会諸行事の開催について
 - 1) 理事会
 - 2) 医療懇話会
 - 3) 各種研修会

2. 動画研修等の開催について
3. 情報管理委員会の開催方法について
4. 叙勲推薦について
5. その他

令和2年度 第2回情報管理委員会

日 時 令和2年9月10日（木）～17日（木）

※メールによる書面開催

【協議事項】

1. 10月号の発行について
2. 新年号の発行準備について
3. その他



お知らせコーナー

会員等の異動

会員の変更

・山陽小野田市民病院

変更後

病院長 藤岡 顕太郎

変更前

病院長 山本 智久

病院協会の主な行事予定

- | | | |
|---------|-------------|----------------|
| ○12月11日 | 医療事務担当職員研修会 | （会場：山口県総合保健会館） |
| ○1月9日 | 新年互礼会 | （会場：ホテルニュータナカ） |

編集後記

◆新政権が発足しました。行政改革やデジタル化を推進されるそうです。デジタル化も良いですが、あれもこれもと要求され現場の負担が増しては意味がありません。是非、諸手続きのスリム化等も並行して欲しいと願います。縦割りの弊害を解消し、重複した内容の書類を複数の役所に提出する事が見直される等、現場の負担を減らす改革に期待します◆新型コロナウイルス対策を錦の御旗に様々な施策が講じられ莫大なコストがかけられています。初期段階を過ぎた今、将来に負の遺産を残さないよう、現場でも効率的に取り組んでいきたいと思います◆「新しい生活様式」にも何となく慣れてきました。Web会議等で時間が効率的に使え便利になった反面、移動の合い間に美術館に立ち寄りたり味巡りをする楽しみが無くなりました。職員と酒を酌み交わした日を懐かしく思います。患者さんや職員を守る取り組みを進めると同時に、そろそろ「新しい楽しみ方」も考えて行きたいです。（木下祐介）